

福島県立医科大学 学術機関リポジトリ



Title	2. 東日本大震災後 PTSD からアルコール依存症を発症し コロナ禍後意識障害の遷延に至った一例 (第35回福島県 精神医学会学術大会抄録)
Author(s)	東城, 愛美; 佐藤, 亜希子; 小野, 広夢; 鈴木, 悠平; 穴戸, 理 紗; 赤間, 孝洋; 野崎, 途也; 三浦, 至
Citation	福島医学雑誌. 74(2): 52-53
Issue Date	2024
URL	http://ir.fmu.ac.jp/dspace/handle/123456789/2458
Rights	© 2024 福島医学会
DOI	
Text Version	publisher

This document is downloaded at: 2024-09-27T05:13:55Z

第35回福島県精神医学会学術大会 抄録

日時：2024年（令和6年）2月4日（日）9:30~13:00

場所：福島県立医科大学7号館2F大会議室

セッション1：震災関連

1. 福島原発事故後に発症しタッピングによる潜在意識下人格の統合法（USPT）により人格の融合を心得た部分的解離性同一性症の一例

¹⁾福島県立医科大学医学部神経精神医学講座

²⁾福島県立ふくしま医療センターこころの杜

○本間（照井）稔宏¹⁾，井上 祐紀^{1,2)}

大成 晃^{1,2)}，橘高 一^{1,2)}

Unification of Subconscious Personalities by Tapping Therapy：USPTは、2007年に小栗により考案されまとめられた解離性障害の心理療法の一つである。主に解離性同一性症やそれに準ずる内在性解離において、膝や肩のタッピングを行うことにより、区画化された人格部分が担当した心的外傷を処理し、人格の統合的単一化を目指す技法である。比較的短い治療期間の中で、体系化された安定感のある方法で処理を進めていくため、クライアントはもとよりセラピストが、パーツに対して心理的障壁をさほど感ぜずアクセスすることができる技法であると思われる。

東日本大震災（以下、震災）およびそれに伴う福島第一原子力発電所事故（以下、原発事故）の被災による福島県民のメンタルヘルスへの負の影響は成人に留まらず、子どもの情緒や行動にも及んだ。震災から10年以上を経て、子どものメンタルヘルス、特にトラウマ関連障害の問題は長期化・難治化するケースが想定以上に多いことが懸念されている。

今回我々は、原発事故に伴う県外避難後、およびその後の県内への帰還後のそれぞれの時点で虐め被害を受けて発症した部分的解離性同一性症を経験した。さらに、母親の協力を得ながらUSPTを行うことによって、主人格と交代人格との融合を達成することができた。被災地の治療者自らが意識して探索する必要がある震災関連のトラウマを、当時の被害の肩代わりを担った正にその人格への労いを以て治療することができた貴重な事例であり、被災地での診療にあたっての心構えおよび治療技法、両者の啓発的意義を込めて報告したい。

なお、本報告にあたり匿名性や個人情報保護に十分に配慮し、本人に口頭および書面にて報告の同意を得た。

2. 東日本大震災後 PTSD からアルコール依存症を発症しコロナ禍後意識障害の遷延に至った一例

¹⁾福島県立医科大学医学部神経精神医学講座

○東城 愛美¹⁾，佐藤亜希子¹⁾，小野 広夢¹⁾

鈴木 悠平¹⁾，宍戸 理紗¹⁾，赤間 孝洋¹⁾

野崎 途也¹⁾，三浦 至¹⁾

アルコール依存症の発症には様々な要因が関与するが、不眠や心的外傷後ストレス障害（PTSD）といった精神疾患を持つ人は自己治療としてアルコールを利用し、依存症の形成に繋がることもある。また、災害後にアルコール関連問題が増加する可能性が高いという報告もある。さらに、新型コロナウイルス（COVID-19）感染症のパンデミックにより生じた分断・孤独といった環境変化は人々の飲酒行動を変え、国際的にコロナ禍での飲酒量増加、飲酒問題悪化が問題となり、WHOから飲酒に関して勧告も示された。日本では総アルコール消費量は減少したものの、アルコール性肝障害、膵炎入院患者が1.2倍に増加したという報告や、アルコール依存症患者の18%がコロナ禍で飲酒欲求が増強したという報告もあり、一部の集団では飲酒問題が悪化した可能性が考えられた。その他COVID-19罹患による肝疾患重症化も指摘されている。今回、東日本大震災後、アルコール依存症を発症し、コロナ禍後にアルコール性肝障害の増悪と飲酒行動の悪化を認め意識障害に至った一例を経験した。

症例は50歳男性。東日本大震災翌日、多数の児童の遺体が散乱する場面を見てから入眠できなくなり飲酒量が増加した。X年5月、COVID-19感染後に浮腫、肝酵素上昇を認めA病院でアルコール性肝障害、肝腫瘍と診断された。経過からアルコール依存症が疑われ、同年8月当科を初診。アルコール依存症、PTSDと診断され薬剤調整目的に同年9月に入院。しかし退院後、大量飲酒が続き同年10月意識障害を認めたため精査加療目的に当科に医療保護入院となった。本会では、症例をもとにアルコール依存症と災害、コロナ禍の影響について、心理社会的・生物学的側面から文献的考察を行う。尚、本発表は本学の倫理規定に基づき、本人の同意を得てプライバシーに関する守秘義務を遵守し匿名性の保

持に十分配慮した。

3. 福島県南相馬市に平成 28 年に開業したメンタルクリニックにおける患者の受診動向について

¹⁾ほりメンタルクリニック

○堀 有伸¹⁾

災害後の被災者の精神的健康問題を調査した研究は数多くあるが、実際の診療状況を調査したものは少ない。本研究では、平成 28 年に福島県南相馬市に開業したメンタルクリニックの、開業から 1 年間の診療記録を用いて、アルコール依存症や心的外傷後ストレス障害 (PTSD) などの患者への介入状況を、治療中の暴力の有無も含めて調査した。

その結果、730 人の患者が 1 年間クリニックを訪れたが、アルコール依存症の治療を受けた患者は少数であった。震災時に心的外傷ストレスを経験した患者は、暴力への関与との相関はないものの、治療中止率が高かった。しかし、複雑性 PTSD の診断は、治療中の暴力への関与と相関していた。

震災後の慢性期にケアを提供する精神科クリニックでは、治療的な対人交流が重視されるアルコール依存症や、トラウマに焦点を当てた精神療法が標準的なケアである PTSD に対する十分な治療が提供されていなかった。専門性の高いリソースを確保し、被災地の人々との包括的な連携を構築することは困難であるが、そのような状況が課題となっている。

なお、この研究は南相馬市立総合病院 (承認番号: 1-12) と福島県立医科大学 (承認番号: 2019-271) での倫理委員会の承認を受けて行われた。また今回発表する内容はすでに論文化され、2023 年に *Against an insufficient intervention for patients with alcoholism or PTSD: An activity report on a psychiatric clinic after the 2011 complex disaster in Fukushima, Japan* というタイトルで *International Journal of Disaster Risk Reduction* 誌に掲載されている。

4. 福島第一原発事故後の移住動向: 県外からの転入者の割合の推移

¹⁾福島県立医科大学医学部災害こころの医学講座

○小林 智之¹⁾, 前田 正治¹⁾

福島県の復興促進に向け、日本政府は第二期復興創生期間の基本方針の中で県外からの移住者・定住者の促進の重要性を指摘した。しかし、原発事故の

被災地である福島県においてどれほどの移住者がいるのか、また、移住者の精神的健康についても明らかではないため、移住者の支援方法を考えるための十分な資料が揃っていなかった。そこで、環境省の放射線健康管理・健康不安対策事業の「原発事故被災地への移住・定住者に対するウェルビーイング形成の支援フレームワークに関する研究」班では、福島県における県外からの移住者の実態や健康ニーズについて調査し、その移住者が県内でより良い生活を送るための支援方法について検討することを目的とした。

本発表では、福島県内の移住者の健康状態について調査するための予備的調査として、福島県現住人口調査データを用い、福島県内の移住者数の推移について 2 つの分析を行った。まず、1999 年 1 月から 2023 年 10 月までの現住人口調査データを用いて、性別と原発事故の有無の要因を説明変数とし、県外からの転入者数についてポアソン回帰モデルの時系列分析を行った。その結果、福島県においてはもともと転入者数が減少傾向にあったが、原発事故を機にその減少傾向が緩和されていることが確認された。次に、福島県内の推計人口に対する 2011 年 3 月以降の累計転入者数の割合を分析することで、原発事故以降の転入者数の割合について検討した。その結果、2023 年 10 月時点で福島県全体の 20.4% が事故後の転入者であることが推測された。また、避難指示等が指定された 12 市町村を個別に分析すると、富岡町、大熊町、浪江町において事故後の転入者数の累計が推計人口の 100% に近い割合となることが確認された。この予備的調査の結果を踏まえ、今後は移住者の精神的健康について検討を行っていく。学会当日は、当研究班の課題と期待される成果について述べてみたい。

セッション 2: 女性・子どものメンタルヘルス

5. COVID-19 流行下における女性勤労者のメンタルヘルスに影響を及ぼす要因の検討

¹⁾福島県立医科大学医学部災害こころの医学講座

○竹林 唯¹⁾, 小林 智之¹⁾, 佐藤 秀樹¹⁾
前田 正治¹⁾

問題と目的: 2019 年 11 月以降、COVID-19 は、緊急事態宣言や外出自粛要請、学校・保育園等の臨時休校・休園など多様な社会的影響を及ぼした。そ